

# 令和5年7月秋田豪雨 災害支援活動報告書



# 1 はじめに



2023年7月に発生した秋田豪雨災害では、五城目町、秋田市をはじめ、秋田県内15市町村に広域的かつ甚大な被害が発生しました。1名の尊い命に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われた皆さまにお見舞い申し上げます。

「いわて学生ボランティアネットワーク」は、東日本大震災での復興支援活動を契機に発足した、岩手県内のボランティア・まちづくりに取り組む学生団体で構成されるネットワーク組織です。隣県・秋田県の皆さまが甚大な被害に遭われた状況を踏まえ、東日本大震災以降、岩手に想いを寄せてくださった恩返しとして、現地の復旧支援活動に携わらせていただきました。

この度の災害では、募金活動からはじまり、被災地域の土砂撤去・家財搬出などの復旧支援活動、秋田県内・外の学生ボランティア間の連携体制づくりに取り組みました。当会が活動するにあたっては、秋田県内の社会福祉協議会、秋田県内・外のNPO団体、大学関係者、日本財団、当会の活動にご寄付いただいたの皆さまに多大なるご協力をいただきました。この場を借りて心より御礼申し上げます。

本紙は当会のこれまでの支援活動の記録および、学生ボランティアによる災害支援活動の一事例としてまとめたものになりますが、現在も厳しい生活を強いられる方々に想いを寄せ続け、今後も必要に応じた活動を模索していく所存でございます。

2024年1月 いわて学生ボランティアネットワーク一同

## 2 秋田豪雨災害の概要

発生時期

令和5年7月14日～16日

被災地域

秋田市、能代市、男鹿市、由利本荘市、潟上市、大仙市、北秋田市、仙北市、上小阿仁村、藤里町、三種町、八峰町、五城目町、八郎潟町、井川町

### 秋田県内の被害状況（令和5年12月26日時点）

人的被害

死亡1名、重軽傷5名

住居被害

全壊11棟、半壊2,892棟、一部半壊28棟、床上浸水741棟、床下浸水3,367棟

非住居被害

公共施設10施設、その他全壊5棟、浸水789棟

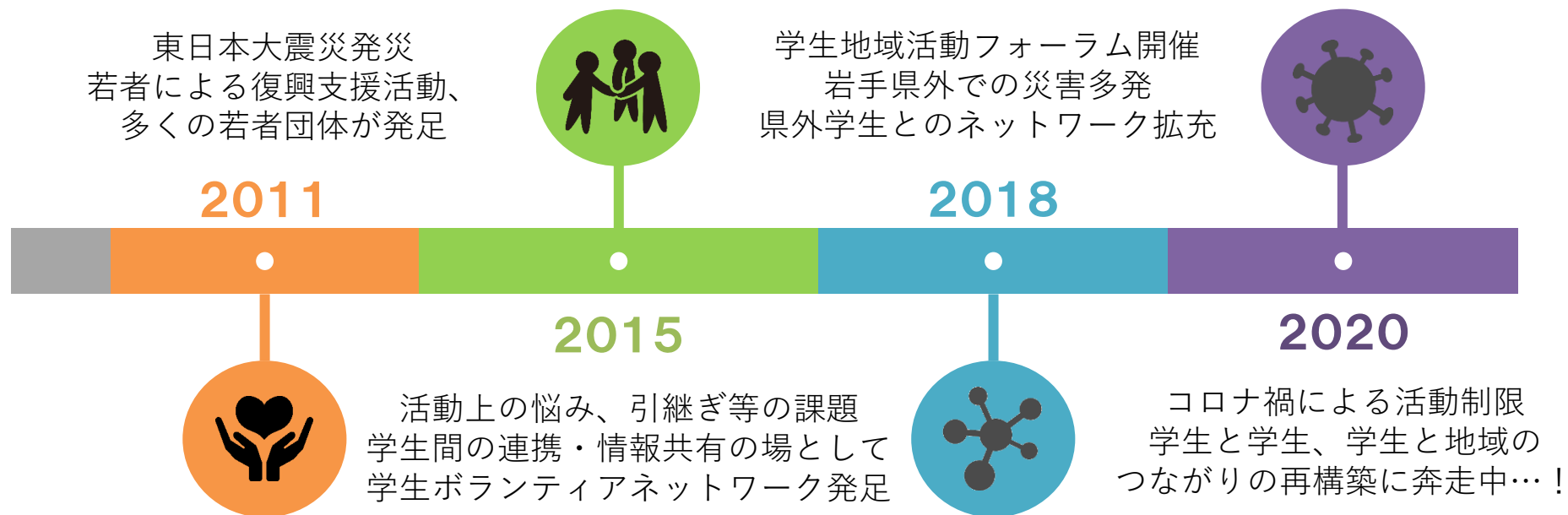




## 目的

岩手県内の学生相互の連携、連絡、情報共有のもとに、学生相互の連携をより円滑化、促進し、学生による主体的なボランティア活動の発展を推進するとともに、地域と学生の相互のつながりを推進することを目的とする。

## 発足～現在の経緯



# 3

## いわて学生ボランティアネットワークの概要



いわて学生  
ボランティアネットワーク

### 連絡会・研修会（平時の連携）

定期的に各大学・専門学校などの学生団体間での連絡会・研修会を開催しています。活動に関する情報交換やそれぞれの学生の強みを活かしたコラボ企画などについて議論しています。



### 災害対応（有事の連携）

災害など有事が発生した時、地域や大学を越えて学生間が連携していくネットワークづくりに取り組んでいます。これまで熊本地震・台風10号災害（2016）、西日本豪雨（2018）、台風19号災害（2019）等で被災地支援活動に従事。



### 幹事団体（令和5年12月時点）

（代表：小室 祐人/岩手大学大学院）

三陸委員会ここより（岩手大学）、岩手県立大学学生ボランティアセンター、風土熱人R、復興girls&boys\*、KIPU\*Labo、北股フレンズ（岩手県立大学）、学友会ボランティア委員会 結 -You-（盛岡大学）

# 4 活動報告（活動内容早見表）

各学生団体が大学内で  
募金活動を実施



8月

五城目町に拠点整備  
土砂撤去、家財搬出等のボランティア  
災害VC運営補助



10月

秋田県内・外の学生  
ネットワークづくり



12月

7月



被害状況・支援活動の  
方向性を連絡会で共有

フェーズ1  
(7月～8月上旬)

9月



サロン活動での傾聴活動  
越冬に不安を感じる世帯の対応

フェーズ2  
(8月中旬～11月)

11月



フェーズ3  
(12月)

## 4 活動報告(フェーズ1/募金活動)

秋田県内の豪雨被害の情報を受け、7月16日(日)に「風土熱人R (岩手県立大学)」の代表から「いわて学生ボランティアネットワーク」事務局に募金活動の実施に関する相談があり、募金活動に関する基礎情報、諸注意などを共有。その後、風土熱人Rの学生メンバーで7月25日(火)~27日(木)の3日間、岩手県立大学構内にて募金活動を実施しました。

8月13日(日)、いわて学生ボランティアネットワーク連絡会を開催し、秋田県内の被害状況や今後の支援活動の方向性について検討しました。具体的には①ネットワーク合同による街頭募金活動、②現地でのボランティア活動の2つの話題が上がりました。①街頭募金について、ネットワーク幹事団体で実施場所の許可申請、看板などの作成、参加メンバーの募集など役割分担を決めて準備に取り掛かりました。盛岡市内での街頭募金活動を検討しましたが、実施メンバーの不足、協力場所との調整に時間がかかってしまい、実施に至りませんでした。

その後、「岩手県立大学学生ボランティアセンター (岩手県立大学)」、「学友会ボランティア委員会 結-You-」がボランティア活動先の川前自治会に募金活動について相談し、2団体合同で募金活動を実施しました。



▲風土熱人R (岩手県立大学) による  
募金活動 (7/25)



▲いわて学生ボランティアネットワーク  
連絡会 (8/13)



▲学生VC (岩手県立大)、結 (盛岡大)  
での合同募金活動

## 4 活動報告(フェーズ2/土砂撤去・家財搬出)



当会では「日本ソーシャルワーク教育学校連盟災害対応部会（以下、ソ協連）」へ現地でのボランティア活動実施について相談しました。ソ協連とは「平成30年7月豪雨」の広島県三原市での災害ボランティア活動でも連携実績があり、活動スキーム、活動財源、活動拠点について検討を行いました。

県外の学生ボランティアが継続的に現地で活動するうえで、活動環境整備（滞在拠点の確保）が必要となり、ソ協連に現地関係者と調整いただきながら、五城目町にある「五城目町地域活性化支援センター（BABAME BASE）」の一室を8月～9月の2か月間、学生ボランティアの滞在拠点としてお借りさせていただきました。

現地活動では、当初は五城目町災害ボランティアセンター（以下、災害VC）を中心に、土砂撤去、家財搬出、家屋の清掃活動などのボランティア活動に取り組みました。五城目町災害VCが週末型（土日のみ開所）へ移行後は、平日などは秋田市災害VCにも通いながら活動していきました。現地の具体的な活動のコーディネートは、外部支援として現地支援活動をされている「いわてNPO災害支援ネットワーク（以下、INDS）」の千葉菜津樹さんに相談・コーディネートしていただきました。



▲学生ボランティア滞在拠点としてお借りした「BABAME BASE」（五城目町）



▲岩手大・岩手県立大・立教大・埼玉県立大合同チームでの活動（五城目町）



▲家財搬出、災害ゴミ置き場までの運搬作業（五城目町）

## 4 活動報告(フェーズ2/災害VC運営補助)

秋田市災害ボランティアセンターでは、ボランティアセンターに寄せられたボランティアニーズおよびローラー作戦による現地訪問で収集したボランティアニーズ票は紙媒体で起票されていましたが、センター職員の業務が多忙であり、データ入力・整理が追いついていませんでした。その中で、学生ボランティアがニーズ票のデータ入力・整理を担いました。

市内NPOらが実施したアンケート調査によると、秋田市では被災後に冬を迎えるのに不安を抱える世帯が800世帯以上いることがわかり、越冬に備えた支援活動や個別の生活課題の対応が必要となってきました。五城目災害VC、秋田市災害VCが閉所後は、「秋田まるっと会議※1」の関係NPO、社会福祉協議会らが主催するお茶っこサロン活動・炊き出し活動のサポートを行いました。サロン活動・炊き出し活動では、食事の配膳や会場設営などの運営面のサポートの他、サロン活動に参加された被災者の方との対話・傾聴活動も行いました。傾聴活動で聞いた内容や気になった事項はサロン終了後のふりかえり会で、支援関係者に共有しました。

※1：「秋田まるっと会議」は今回の災害で被災された方々の支援に向け、行政、社協、NPOが連携し、被災者の生活面・健康面でのサポート、コミュニティ支援、支援団体への情報・支援ノウハウの提供等をするためのプラットフォームです。



▲災害VCのボランティアニーズ票のデータ入力作業（秋田市）



▲まるっと食堂での傾聴活動、炊き出し活動（秋田市）



▲越冬に備えた床板貼り活動（秋田市）



災害VCが閉所後も生活再建に係る個別の困りごとや地域課題などが出てくることが予想されます。そこで災害復旧・復興フェーズが移行していく中でも、秋田県内・外の学生ボランティア、NPOなどが連携しながら継続的な活動に携われるような連携体制づくりについて考える研修会の必要性が出てきました。そこで12月23日(土)・24日(日)に日本赤十字秋田看護大学・短期大学を会場に「あきた学生つながるミーティング」を開催しました。研修会では秋田県内の大学生、NPO、社協の他、岩手県内および秋田の支援活動に携わっていた中央大学ボランティアセンターの大学生が参加し、2日間で延べ52名が参加しました。

研修会1日目の第1部トークセッションでは、「日本赤十字秋田防災ボランティアステーション」の中心メンバーの学生・安住繭子さん、秋田県内の中間支援NPO「NPO法人あきたパートナーシップ」の畠山順子さん、外部支援団体として復旧支援活動に携わっていた「一社) OPEN JAPAN」の肥田浩さんにご登壇いただき、学生ボランティアによるこれまでの支援活動のふりかえりとこれから予想される課題や学生ボランティアの力が求められる場面について参加者と一緒に共有しました。第2部では秋田県内・外の学生団体の普段の活動事例紹介を行い、コミュニティ支援活動等のノウハウを共有しました。第3部では今後のネットワークづくりに関する意見交換を行いました。



▲学生ボランティア、NPO関係者らと一緒に  
これまでとこれからを振り返るトークセッション



▲学生団体同士による活動事例紹介



▲今後のネットワークの在り方について考える  
ワークショップ

## 4 活動報告(フェーズ3/ネットワークづくり)

研修会2日目は、最初に「あきたパートナーシップ」が指定管理を受けている「秋田県ゆとり生活創造センター 遊学舎（以下、遊学舎）」に訪問しました。遊学舎では発災当初から現在までの支援活動の流れから、NPO団体が行っている支援活動、課題となっている被災者への暖房器具の受け渡しについて情報交換を行いました。また、NPOが個別対応で行っている被災世帯の床板張りのボランティア活動を行いました。

午後は日本赤十字秋田短期大学の及川真一講師から専門として行われている防災キャンプに関する講話を行いました。講話では過去の災害の実例も踏まえた避難所・避難生活の課題について教えていただき、そのうえで単純に防災活動の必要性を啓蒙するのではなく、「防災キャンプ」のようにいかに参加のハードルを下げられるよう活動をデザインする必要性についてお話いただきました。その後は実際に参加者同士でポリ袋を使ったきりたんぽづくりを体験しました。

調理や食事を通じて参加者同士で交流しつつ、話の中では年明け以降の連携やコラボ企画の話も上がり、今後のネットワークづくりにつながるような信頼関係が生まれる機会となりました。



▲秋田県内のNPO団体への視察・情報交換



▲個別対応で行っている床板張りの作業



▲防災キャンプを通じた学生間の交流

## 4 活動報告(発災から現在までの活動実績)



### 募金活動

- ① 7月25日(火)～27日(木) 主催：風土熱人R (岩手県立大学)  
寄付先：日本赤十字社「令和5年7月7日からの大雨災害義援金 (秋田県大雨災害)」  
実施場所：岩手県立大学構内 募金総額：50,000円
- ② 8月2日(水) 共催：学生ボランティアセンター、学友会ボランティア委員会 結-You-  
寄付先：日本赤十字社「令和5年7月7日からの大雨災害義援金 (秋田県大雨災害)」  
実施場所：川前自治会 (川前夏祭りイベント内) 募金総額：2,000円

### 現地活動

- ①土砂撤去・家財の搬出作業など (災害ボランティアセンターでの活動)  
活動期間：令和5年8月16日～9月16日 計 20日間活動  
活動人数：延べ105名 (参加校：岩手大学、岩手県立大学、盛岡医療福祉スポーツ専門学校、立教大学、埼玉県立大学)
- ②災害ボランティアセンター運営補助、サロン・炊出し活動などソフト支援活動  
活動期間：令和5年8月16日～9月16日、10月28日～11月5日 計 14日間活動  
活動人数：延べ38名 (参加校：岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学)
- ③あきた学生つながるミーティング  
実施日：令和5年12月23日～24日 計 2日間活動 ※研修会・打合せ含めると3回  
活動人数：延べ52名 (参加校：日本赤十字秋田看護大学・短期大学、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、中央大学)



## あきた学生つながるミーティング 参加者アンケート結果

※一部抜粋

## Q1 「あきた学生つながるミーティング」の満足度

とても満足 やや満足 どちらでもない やや不満 とても不満

94.1%

5.9%

## Q2 交流会を通じて得た気づき・学び

- ・防災の重要度を分からせることではなく、参加率を上げること。
- ・秋田の豪雨災害による被害の現状やボランティアに積極的に取り組む岩手や秋田の学生の様子が非常に印象に残った。
- ・施設見学の際にカーシェアリングをした方がお礼を書くスケッチブックがあった。そこに「今後はこの活動を支援させていただきます」という文を見つけた。支援やボランティアを通して人の輪が広がっていくことを実感し感動した。
- ・秋田でのボランティアを通じて特に「継続性」が大事だと考えていた。「支援する側の1日と被災者の長い復興の中の1日では長さが違う」が特に印象に残った。
- ・支援される側ではなく支援する側に立つということが印象に残った。
- ・秋田では、ボランティアネットワークがあまり発達していないことや、ボランティアの中でも県内の参加者が少なかったことから、秋田県内でのボランティアや災害への意識が他県ほど高く無いことに気づいた。ボランティアネットワークが発達していくことで、被災した際の避難やその後の復旧作業が、より円滑になるのでは無いかという考えが出たことが1番印象的であり、これから取り組んでいきたい目標であると感じた。
- ・私は及川さんの様に運命によって津波から逃げることが出来ました。1度死んでしまっていると考えればなんでも出来るという考えはとても面白いと思い自分も取り入れることにしました。

## Q3 今後できそうなこと・取り組んでみたいこと

- ・友達をボランティアに誘ってみる。
- ・家族や友人、地域の方に秋田の豪雨災害のことを伝えていきたい。
- ・自分の地域での活動に参加したい
- ・ボランティア団体をたくさん集めたclassroomを作る。
- ・岩手県立大学の防災拠点活動防災キャンプフェスのような、岩手県立大学が大規模な避難所になることを想定した訓練
- ・災害ボランティアステーションの情報を、参加してない学生にも伝える
- ・県内の他大学と連携して、ボランティアネットワークを発達させていきたい。
- ・スマートフォンなどの通信機器に事前にどのような住宅に住んでいるのか(木造など) 普段はどのような所にお買い物に行くのかなどを設定し、その場にあった防災を通知で知らせるようなアプリケーションを作りたい。

## Q4 必要なこと・協力してもらいたいこと

- ・災害に関してどういう対策を行っているか情報を知りたい。
- ・オンラインで定期的に意見交換などが出来るとよい。
- ・ボランティア情報を通知していただきたい。
- ・ネットワークもしくは県大の各団体にもこの話をしてみたい。
- ・消防署等とのつながり方を教えてもらうこと。
- ・SNSでの情報発信
- ・大学同士の連携

## 成 果

## ①大学・地域を超えた連携・コーディネーションによる継続的な支援活動

当会では、現地の支援関係者（社会福祉協議会、NPO）との連絡調整、活動資金調達（日本財団へ申請）、学生ボランティアの募集および現地までの送迎を一括して行いました。学生ボランティアの募集に関しては、当会HP・SNS・メルマガでの発信のほか、岩手県内の大学・専門学校にボランティアセンター、学生支援課、教職員を通じて各大学・専門学校のメーリングリストでの情報発信にご協力いただき、継続的な支援活動ができました。

## ②ボランティアセンター運営補助

秋田市災害ボランティアセンターでは、ボランティアセンターに寄せられたボランティアニーズおよびローラー作戦による現地訪問で収集したボランティアニーズ票は紙媒体で起票されていましたが、センター職員の業務が多忙であり、データ入力・整理が追い付いていませんでした。その中で、学生ボランティアがニーズ票のデータ入力・整理を担うことでセンタースタッフの負担軽減に寄与することができました。

## ③秋田県内・外の学生ネットワークの兆し

秋田県ではこれまで「秋田学生赤十字奉仕団」が大学間のハブ的機能を有していましたが、コロナ禍の影響で活動が停滞し、ハブ的機能が弱まっていた中で今回の災害に見舞われた背景がありました。今回の災害では日本赤十字秋田看護大学の学生ボランティアが中心に支援活動に従事されていましたが、他大学・他機関との繋がりには限定的なものがありました。秋田県内・外の大学生ボランティア、地元NPOを対象とした研修会を開催したことにより、大学や地域を超えた大学生ボランティア間のネットワークを構築することが出来ました。

## 課 題

## ①学生ボランティアの移動手段の確保

秋田県外の大学生ボランティアの継続的なボランティアマッチングは出来たものの、当初の達成目標で設定していた活動人数に達することができませんでした。要因としては、①大学生ボランティアを現地まで送迎する送迎ボランティアの人員が当会事務局のリソースのみであったため、「当会事務局の送迎可能日＝活動可能日」となったことが挙げられます。学生ボランティアの活動コーディネートにおいては「現地までの送迎手段（足）」の確保が必須であるため、送迎ボランティアの確保・関係機関との連携が今後の課題となります。

## ②計画的・効果的な情報発信・活動企画

当初の予定ではボランティアバスの運行も計画していましたが、参加者人数の見込みが流動的であったため計画が立てづらく、結果的に当会事務局の自家用車・レンタカーによる移動の割合が多くなってしまいました。また、県内大学にはポータルサイトやメーリングリストを通じてボランティア募集情報を発信いただきましたが、実際の参加者の中にはポータルサイト、学内メールだけでは情報を見逃す学生が多いのが現状です。より効果的な情報発信、平時から災害時における関係機関の役割分担を検討・議論する必要があります。

## ③被災地域および近隣大学との平時からの連携体制づくり

秋田県内・外の大学生ボランティアを対象とした研修会は開催できたものの、日本赤十字秋田看護大学と連携体制構築に関する議論を始められたのが10月以降となってしまう、連携の初動が遅くなってしまいました。県外の被災地支援においては、被災県の大学がホスト校として連携することにより、現地との調整・活動マッチングの効率化につながります。今後、既存大学ネットワーク（公立大学学生ネットワークLINKtopos等）や大学コンソーシアム（復興大学災害ボランティアステーション等）で災害時における連携可能性を検討する必要があります。





多くの個人の皆様からの御寄付、

情報発信から現地活動含め

私たちの活動にご協力・ご支援

くださったすべての皆様に感謝

申し上げます。

- ・ 社会福祉法人秋田県社会福祉協議会
- ・ 社会福祉法人五城目町社会福祉協議会
- ・ 社会福祉法人秋田市社会福祉協議会
- ・ 一般社団法人ドチャベンジャーズ
- ・ NPO法人あきたパートナーシップ
- ・ 一般社団法人OPEN JAPAN
- ・ 一般社団法人ピースボート災害支援センター
- ・ NPO法人BOND&JUSTICE
- ・ いわてNPO災害支援ネットワーク
- ・ 公益財団法人日本財団
- ・ 技術系ボランティア団体 風組関東
- ・ 日本赤十字秋田防災ボランティアステーション
- ・ 公立大学法人岩手県立大学
- ・ 国立大学法人岩手大学
- ・ 学校法人盛岡大学
- ・ 学校法人龍澤学園盛岡医療福祉スポーツ専門学校
- ・ 日本ソーシャルワーク教育学校連盟災害対応部会
- ・ 中央大学ボランティアセンター
- ・ 株式会社富士モーターサービス
- ・ 川前自治会
- ・ 菅野 道生 氏 (淑徳大学)
- ・ 亀地 夏季 氏

# 令和5年7月秋田豪雨 災害支援活動報告書

2023年7月～2023年12月

2024年1月発行

【発行】いわて学生ボランティアネットワーク事務局

〒028-3601 岩手県紫波郡矢巾町高田15-34-3  
TEL : 080-6010-3314 Mail : iwate.stu.vol@gmail.com  
HP : <http://iwatesvn.site/>



本事業は、日本財団「令和5年6・7月の大雨被害に関わる支援活動」事業の助成を受けて活動しました。